pLATEX ニュース 第7号

2001年09月発行

作成者: 中野 賢 (<ken-na at ascii.co.jp>) & 富樫 秀昭 (<hideak-t at ascii.co.jp>)

1 この文書について

この文書は、 $pIPT_EX 2_{\varepsilon} < 2001/09/04 >$ 版について、前回の版 (< 2000/11/03 >) からの更新箇所をまとめたものです。それ以前の変更点については、pInews*.tex や Changes.txt を参照してください。 IPT_EX に付属のItnews*.tex などを参照してください。

2 使用および配付条件の変更

 $pIPT_EX 2_{\varepsilon}$ の配付および利用条件を「(変更済み)BSDライセンス」にしました。内容については、COPY-RIGHT ファイルを参照してください。

3 nidanfloat パッケージ

nidanfloat パッケージは、最終ページの左右カラム の高さを均一にして出力するようになっていました。

この機能は、左カラム用に保持している内容と、右カラム用の内容を一度まとめ、再び2分割するだけの 簡略した実装で実現されています。

そのため、左カラムだけで収まる量しかない場合、ページ下部への出力を指定した(2段抜きでない)フロートは右カラムの下に置かれます。また、\newpageコマンドでカラムを変更しても、ページ出力時に左カラム用の内容とまとめられ、分割位置が調整されるので、指定した\newpageコマンドの位置でカラムが変わりません。

そこで、最終ページの高さ調整機能を使うかどうかを 制御するためのパッケージオプションを導入しました。 自動調整するには、パッケージをロードするときに "balance" オプションを指定してください。

\usepackage[balance]{nidanfloat}

逆に、調整しないようにするには、オプション "nobalance" を指定します。

\usepackage[nobalance]{nidanfloat}

デフォルトは nobalance にしてあります。

4 その他の主な修正箇所

次のような不具合の修正や仕様の変更をしました。

- \enlargethispage コマンドを用いた場合、脚注 と本文が重なってしまう。
- \chpater コマンドと \chapter*コマンドで見出 しの出力位置が異なる。
- \adjustbaselineで調整量が合っていない。
- \pbox コマンドで z オプションを指定するとエラー になる。
- 目次のページ番号の書体を \rmfamily から \normalfont に変更しました。

5 フォーマットファイル作成時の注 意

現在の pT_EX では、8 ビットコードの連続を 16 ビットコードと認識してしまう場合があります。そのため、フランス語やキリル文字などの 8 ビットコードが連続するハイフンパターンはまず使えせん。例えば cmcyralt パッケージでは、途中でつぎのようなエラーになります。

(/usr/local/share/texmf/tex/latex/contrib/
other/cmcyralt/rhyphen.tex Russian hyphena
tion

! Bad \patterns.

1.107 . え

2

このときは、"?" のプロンプトに対して "x" で終了してください。残念ながら、このハイフンパターンをpTpX で利用することはできません。

そこで、hyphen.cfg を用意して、不用意に他のハイフンパターンを読み込まないようにしてあります。詳しくは README2.txt をご覧ください。

6 その他

 ${
m pT_EX}$ や ${
m pIPT_EX}$ $2_{arepsilon}$ に関する最新情報は、 ${
m pT_EX}$ ホームページ

http://www.ascii.co.jp/pb/ptex

より、入手することができます。 バグ報告やお問い合わせなどは、電子メールで

www-ptex @ ascii.co.jp

までお願いします。